

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2871900334		
法人名	社会福祉法人 日の出福祉会		
事業所名	グループホーム ふたば		
所在地	兵庫県小野市二葉町80番123		
自己評価作成日	平成22年6月5日	評価結果市町村受理日	平成22年8月4日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2871900334&amp;SCD=320">http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2871900334&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成22年6月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・互いに助け合うひとつの家族を目指し、毎日の何気ない会話や家事畑仕事 など共に暮らす時間を積み重ね信頼関係が深まる暮らしの場をつくる。  
 ・利用者の「元気で長生き」を願い、安心と生きがいのある暮らしを楽しむ。  
 ・ホーム、業務、日課や職員中心でなく、利用者一人ひとりの生活中心に職員が動かされ支援していくスタイルを大切にしている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. それぞれの生活習慣や個性を大切にしながら、互いに助け合って、ひとつの家族のように暮らします。2. ふれあいの場を地域に広げ、人と人のつながりの中で、安心と生きがいのある暮らしを楽しみます。」というホームの理念がそのまま日々のサービスに自然に反映され、実践されている。居間では利用者と職員の会話が弾み、畑作りを利用者、家族、職員で楽しみ、笑いを絶やさない明るい暮らしの場を提供している。平均年齢85歳以上の高齢化した利用者を、今の「元氣」を継続するために職員が一丸となって熱意をもって取り組まれている。地域、市町と良い関係を築きながら、地域のグループホームのリーダー的な役割を務めている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および第三者評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安心と生きがいのある暮らし」を利用者と職員が一緒に「楽しみたい」という理念を毎日のケアの中で無理なく実践できるように取り組んでいる。	ホーム開設当初より、地域との繋がりを大切にされ、また、誰もが目に付くホーム入口に「互いに助け合い、家族のように暮らす。社会参加の中で安心と生きがいのある暮らしを楽しむ」の二つの理念を掲げられている。施設長、リーダーが絶えず意識をもって、日々のサービス提供の中で実践に努められている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内自治会の催し(花見会)に毎年参加させて頂いている。利用者の草履作りを通して地元小学校との交流も生まれている。	草履作りに巧みな利用者が作った色とりどりの草履がホーム内の壁に展示されている。一昨年より昔の文化「草履作りと鼻緒作り」が近隣の小学校に実演紹介され、交流が継続している。また、町内自治会主催の春の花見会、年1回行われる町内溝掃除・公民館周囲の草刈には職員と一緒に参加されている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者の地域参加、近所付き合い(畑活動においてのふれあい)のなかでグループホームの暮らしを知ってもらうようにしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	H19・4月より定期的に会議を開催し 状況報告、サービス向上の意見も頂きケアに活かすようにしている。	2月に1回の開催には至っていないが、前区長、評議員、老人会代表、市担当者、利用者家族、施設長、ホーム長、リーダー等が構成メンバーとして出席されている。会議内容としては、利用状況の報告だけに留まらず、ホームが抱える課題とか提言・要望が話し合われている。会議後は、ホームリビングで利用者と一緒に昼食をされている。	利用者の負担にならない程度での利用者の会議出席への取り組みを期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町担当者との相談、意見交換を行い、サービスの向上に繋げるよう努力している。	ホーム開設以来、今年3月末まで市担当者が同一の担当者であったこととホーム側の事業運営に対する真摯な姿勢により、行政と協働の関係が築かれていた。また、行政の呼びかけにより、世話人役となって市内3事業所の連絡会を立上げ、2ヶ月に1回、連絡会が開催されている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束は行っておらず 玄関はドアベル設置にて対応しペット柵の使用も本人の転落不安の軽減の為のみに使用しており 職員の目配り 気配り 見守りの強化を図っている。	ホーム側は、ホーム利用に当たって、利用者・家族等に、ホームは身体拘束はできない旨を説明し、了解を得るようにされている。また、玄関の施錠については、日中は一切していない。ドアベルの設置と職員の目配り・気配りにより利用者を見守っている。	
7	(6)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待が見過ごされることがないように、会議等で話し合ってきた。	一人勤務の夜勤帯に、職員にとって不安・ストレスが生じることは当然のこととして受け止め、感じたことや思ったことを業務日誌に記載するように担当職員に指導している。全職員はネットワークで繋がったパソコンで業務日誌を作成し、施設長は毎朝、前日の状況を即時把握して、ホーム内での職員による虐待防止に努めている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で学ぶ機会を作っている。今のところは制度が必要な方はおられない。	併設の特別養護老人ホームで成年後見制度を活用されている方がおられるので、必要が生じた時に活用したいと考えている。また、スタッフ会議の後に勉強会の機会を作られている。	高齢者の権利擁護の観点から、一般常識として職員が制度についての知識を備えていることが望まれる。必要になった方にいつでも説明し、情報提供できるよう取り組んでほしい。
9	(8)	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には十分な説明がなされ、利用者・家族の不安を聞き、理解・納得を得ている。様々な問い合わせにも対応できるように努めている。	入居時の契約については、利用者・家族に事前に見学していただき、十分な説明を行い、一度帰られて理解・納得していただいた上で、契約締結を行っている。契約改定がある場合にも丁寧に説明を行い、納得していただいた後に契約締結している。	
10	(9)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が何でも訴えられる環境づくりに注意を払い、家族の面会時や家族会でも意見を引き出し、要望や不満にはすばやい対応に努めている。	現在は、3ヶ月に1回程度であるが、設立当初より家族会が2ヶ月に1回、定期的で開催され、家族同士の結びつきもあり、家族会の意見が反映されて家族とホーム間には信頼関係が醸成されている。また、普段の訪問時にホーム側は、暮らしぶりをお伝えするとともに、家族から意見・要望を聴いている。	
11	(10)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議、スタッフ会議と月2回の会議で意見交換ができるようにしている。職員が言いやすい環境づくりも心掛けている。	施設長、リーダー、サブリーダーが構成メンバーとなるリーダー会議、職員全員が出席するスタッフ会議が月1回開催されており、職員の意見・要望等を吸い上げるようにされている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のストレスを軽減する為に職員同士の話しやすい環境づくりをし、職員が努力していることを認め、向上心に働きかけている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を進めているとともに、他ユニットでの研修も組み込んで、働きながらの力量向上も進めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	H20・10月に小野市グループホーム事業所連絡会を立ち上げ、2ヶ月に1度、集まっている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15			初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	各利用者の状態観察(表情の変化も含)に努め個人的に話をする機会を持つようにしている。		
16			初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期における家族の要望を念頭におき面会時や家族会においてのコミュニケーションを大切にしながら気軽に何でも話せる環境づくりをしている。		
17			初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時必要とされていることを職員間で共有し見極めて支援できる体制作りを心掛けている。		
18			本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は何でも言い合える関係が築けており 子供であり、孫であり、嫁であるという会話が飛び交っている。家事や畑での知恵は教えていただく事の方が多く支え、支えられ、喜怒哀楽を共にしている家族的な関係が築かれている。		
19			本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日会などの行事以外にも 日々の訪問や外出、家族会を通じてスタッフとの信頼関係は強化されており 共に利用者を支え 安心に繋げる状況づくりに努めている。		
20	(11)		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前までの行きつけの美容院や地域の集まり(老人会等)への参加も定期的になされており友人・知人が何時でも気軽に来所していただけるような環境づくりが出来ている。	定期的に地域の美容院に行かれる方、それぞれの地域の老人会に参加される方もおられる。また、毎日の散歩や、畑作業の時に地域の方々と挨拶を交わしたりすることもある。職員は常に利用者となじみの人や場所との関係継続に配慮した支援をされている。	
21			利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの相性はあるが日々の暮らしの中で助け合いながら 共に暮らし 共感し お互いを尊重できるように 常に利用者同士での意見交換や話し合い 団楽交流を図り 孤立することのないように努めている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族からの相談に応じたり、家族が気軽に立ち寄れる環境づくりが出来ており、退去されたり、亡くなられた方の家族も立ち寄ってくださり、家族会の畑手伝いにも参加下さったりしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの暮らしをなるべく崩さないように希望を聞き、尊重し、意向に添った形で暮らしていただけるように努めている。	利用開始時に把握した生活歴並びに毎日のサービス提供の中から気付いたことを介護日誌に記録したデータを基に利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努め、その人に応じた支援を行っている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活スタイル(生活歴・興味・希望等)を把握し 日々の暮らし方での新しい発見も含めてその人らしい暮らしの提供に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の残存機能、身体レベルを把握し本人のペースに合わせた暮らしを支援している。持っておられる能力を引き出し、維持できるように生活の中で常に活用し心掛けている。		
26	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に2回の会議では常に現状のケアについての状態や情報交換(家族・本人の申し出)・ケアの見直しについて話し合われており 必要があればプランの立て直しもされている。	利用者・家族の意向を反映し、ケア会議で検討され、ケアマネジャーが介護計画書を作成している。利用者・家族への説明及び同意を得て実施されている。短期・長期の目標が設定されて、3カ月または6カ月毎に定期的に見直しが実施されている。	モニタリング表等に、「効果の確認」を記録され、PDCA(計画 - 実施 - 点検/評価 - 改善)サイクルを意識した取り組みに期待したい。また、ケア会議には、更に、家族・利用者・職員等関係者によるチームによる介護計画書の作成を期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や暮らしの中で気付いた点や改善部分は口頭・連絡帳を利用している。実施したことは記録し 話し合いや 見直しに活かしており その1日の記録は 月毎に個人別にファイルして介護計画に反映している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	予定や時間の流れに縛られることなく自由に行動できる柔軟な支援にとりくんでいる		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	詩吟ボランティアの訪問が定期的であり 楽しみを増やしてもらう目的で手芸ボランティアも始まっている。		
30	(14)		かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に往診してもらっている医院との関係が確立しており、日常での相談指示も受けられる。	入居前に利用者・家族の理解・納得の上で、利用者全員が、入居前のかかりつけ医から協力医療機関主治医による受診に変更されている。主治医の指示により他の病院・他科受診の際は、ホーム職員が通院介助の支援を行っている。	
31			看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1～2回は訪問看護師の来所があり利用者との深い信頼関係が築かれており 適切な指示を仰ぐことが出来る。		
32	(15)		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の家族との連絡は密に行われており 家族の不安軽減に努めている。また入院中の利用者の様子を見に行ったり、病院関係者との情報交換や相談を行う中で 早期退院への支援を行っている。	入院時については、本人への支援方法についての情報を医療機関に的確に提供し、入院中は職員、利用者がほとんど毎日見舞うようにされている。また、ホームは、利用者・家族の負担軽減につなげるべく、早期退院へのアプローチをしている。	
33	(16)		重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームで終末期のケアと看取りを実践した経緯があり 利用者・家族・主治医との連携・話し合いによって 全員で方針を共有し 更なる検討や準備を重ねて支援に取り組む。	3年前前、ホームで終末期を迎えた利用者のケアと看取りを体験された経緯もあり、利用者・家族等には安心と信頼感がある。重度化や終末期に向けた方針の共有は職員全体でされており、入居に際して方針を家族に明確に伝えている。	
34			急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応、連絡方法などはスタッフ会議時の勉強会に取り入れている。		
35	(17)		災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に日中・夜間想定した避難訓練を実施している。	年に2回定期的に、消防署指導のもと、消防訓練及び避難訓練が実施されており、夜間想定訓練も実施されている。前回の第三者評価実施で課題となった、地域の協力取り付けについても運営推進会議で話し合われている。	災害発生を想定した訓練が着実に実施されているが、災害発生時を想定したシミュレーションの実施を望みたい。グループホーム単体で夜間・昼間の各発生時における初動体制、連絡体制、誘導体制(車いす利用者を含む)を職員同士で話し合い、マニュアル化して共有することが望まれる。

自己	者 第	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室訪問にはロックをして許可を得る、排泄介助はその人の誇りを損なわないように他者に気付かれない対応をする、など 個々を尊重した言葉かけや対応を心掛けている。	ホームでは、利用者が毎日の生活の中で家族のように安心して暮らせるように、今の関係の中で、なじみの人としての関係を大切に、気を遣わせないように配慮し、支援に努められている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話かけを常にし、利用者の思いを汲み取るように心がけ 自分で決めて納得し暮らせるように見守っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各々が思うとおりに日々を送れるように支援することを目指し 一人ひとりのペースを大切に過ごせる暮らしを送れるように努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来ている。それぞれの主張をスタッフも理解している。		
40	(19)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で出来た新鮮な野菜を主に何らかの形でより多くの利用者が参加できている食事づくりを心掛けており 各々の役割を發揮できる場として調理・配膳・後片付けの流れを作り 季節を感じ取れる楽しい食卓を目指している。	ホーム近くの畑で、利用者と職員が一緒に育てた野菜を収穫し、朝食・昼食の食材として活用している。女性利用者全員が、調理・配膳・後片付けの中で何かの役割をになっている。昼食時の風景も和やかでゆったりとした雰囲気の中、利用者と職員は、楽しくおしゃべりをしながら一緒に食事を楽しんでおられた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝食と昼食は手作り、夕食は特養の厨房からくるようにしている。手作りメニューも献立表に残し、夕食で1日を調整した食事になっている。食事量・体重の増減チェック・水分量確保の記録にも努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア(ブラッシング・義歯洗浄など)は起床時・就寝時に行っている。外出から帰られたときのうがいも欠かさずなされている。		



自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助の必要な方には それぞれ排泄のパターンを把握し タイミングを見計らったのトイレ誘導などで 失敗を減らし 気持ちの良い排泄に努め。日中と夜間でのポータブルトイレや パットの使い分けで自立が維持できるように支援している。	一人ひとりの力や排泄パターンを把握し、本人の生活リズムにそった支援が行われている。紙パンツやポータブルトイレを使用される方にはトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援が行われている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態・周期をチェックし、腹部の状態にも注意している。起床時に冷水飲用や献立に繊維質の食材を使用したり きなこ牛乳やヨーグルト摂取など自然な排便を心がけ 毎朝の散歩やラジオ体操など運動にも取り組んでいる。		
45	(21)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	それぞれの希望やタイミングにあわせて入浴していただき 拒否の場合は翌日に延期するなど 自主的な入浴によって楽しみな時間になるように努めており くつろぎが得られるように 時間的な制限はなされていない。	利用者一人ひとりの生活習慣や希望にそった入浴支援がされている。現在は、2日に1回午後に入浴することが定着しているが、利用者の希望があれば、毎日、いつでも入浴できるようになっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中充実した生活を心がけ 夜間によく休んでいただくように努める。 個々の生活リズムが崩れないように配慮し、体調変化にも応じられるようにしている。 寝具の清潔や室内の温度にも気を配り安眠を提供できるようにし、寝付けない利用者には安心が得られるまで対応する。 日中も状況に応じてゆったりと自由に休息できるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が処方箋と情報提供書の理解しており 個人別に分けられたものを1日分づつに仕分けすることで飲み忘れの防止をはかり 日々のバイタルチェックなどとも照らし合わせての情報交換などがなされている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々の生活歴や趣味・嗜好に合わせて畑作業・料理・花の世話・手芸・物づくりなど楽しみ方や喜びは様々であるが 役割を持つ張り合いや 時間の経過を忘れるほどに夢中になれることを見つけ出し提供できるように努めている。		
49	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には散歩や畑の作業・必要な物品の買い物などは自由に出かけられる。月に1回の外出計画は利用者・職員が全員参加でいろいろ意見が反映され 楽しみの一つとして定着している。	ほとんどの利用者は、毎日、ホーム周辺を散歩することを楽しみにされている。また、ホームから300メートル程のところにある畑に職員と一緒に畑作業に出掛けたり、買物に出掛けたりされている。ホームでは、利用者の気分転換やストレス発散、五感刺激のために、月1回、日帰りの遠方外出の機会も作り支援されている。	



自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで安心感をもたれる為混乱されない限りは 家族了承の上所持され外出時には使えるようにしている。又ホームで管理している利用者も必要に応じて外出や買い物時に一緒に支払いをしており、家族にも報告している。		
51			電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っておられる方もおられ、又公衆電話の設置もあり好きなきに電話をかけられる。手紙も自由にやり取りが出来 返事を書かれることが楽しみな日課になっている方もおられる。		
52	(23)		居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花々や散歩時に摘み取られた野花が飾られ 話題の元になっている。不快な音・光がある時はすぐに改善してもらっている。	玄関脇には、手作りによる2組の木製テーブルと腰掛が8脚ほど置かれ、日差しを遮る朝顔の花のグリーンカーテンを施したちょっとした休憩が取れる場所ごしらえがされている。中に入ると廊下には、外出時のなごやかな表情の写真や利用者が丹精込めて編んだ色彩豊かな草履が壁に展示され、安らぎが感じられる。リビングには季節の花が活けられ、数人の利用者が談笑しており、居心地のよさを感じる。	
53			共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や玄関に ベンチや長いすを設置し、それぞれの時間を楽しめるようにしている。又一人一人に居室があるので一人で部屋で過ごされたり利用者同士で訪問しあって おしゃべりに花を咲かせたりされている。		
54	(24)		居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に使い慣れたものを持ち込み(ベッド以外は全て)本人の好みに応じて必要なものや飾り物などが置かれている。	タンス・物入れ・テレビなど、利用者・家族は思い思いのものを持ち込まれていた。ベッドの枕元には家人に見立てて縫いぐるみ人形を置き、床の片隅には小さなつい立の前に花を活けて落ち着いた生活空間を演出されていた。	
55			一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子の高さに合わせた炊飯器の台の設置・取り出しやすい歌詞集の設置場所の移動など 利用者の環境の変化に合わせて 安心して出来ることが継続するように 臨機応変な環境づくりに取り組んでいる。		